

用 船 仕 様 書

1. 調 査 名 : 東シナ海底魚資源分布生態調査

2. 調査目的・概要

東シナ海大陸棚はかつては以西底びき網漁業の漁場であったが近年は中国船との競合等によりほぼ撤退状況となっている。しかしながら東シナ海は我が国周辺における主要漁獲対象種の産卵場・生息場所であることから、当該海域における適切な資源管理が必要不可欠である。本調査は東シナ海大陸棚域を中心にトロール調査を行い、主要底魚類の現存量の推定、分布様式の把握、成熟、食性等に関する知見の収集を行い、当該海域の資源管理に資することを目的とする。

3. 調 査 内 容

*各調査点において下記の調査を実施する。

① STDによる海洋観測（調査点 約 80 点）

メモリー式 STD を用いた観測（水深より-5m まで（最深でも 250m程度））を行う。機器取付及びウィンチ操作は乗組員が行い、STD により取得したデータ整理は調査員が行う。本調査で使用するメモリー式 STD（JFE アドバンテック社製アレックメモリー STD ASTD1000-P）は西海区水産研究所（当所）が用意する。

② 漁獲調査（曳網回数 約 80 回）

着底トロール網による魚類・底棲生物の採集（水深約 80～250m、トロール網はニチモウ製 SSR-II 型、曳網時の網口高さ約 4m×網口幅約 20m×長さ約 50m、船速 3 ノット）。着底トロール網のトロールウィンチ取付、及び曳網等に係る操作は乗組員が行う。トロールは日出後～日没前に 1 日最大 4 網を目処に曳網する。夜間には実施しない。本調査で使用する着底トロール網、及びオッターボードは当所が用意する。

③ 計量魚探調査（全航走中）

定点間の航走中および着底トロールの曳網中に 38kHz のスプリットビーム式計量魚探を作動させ、底層付近に存在する魚群の音響反応を記録する。なお、航走中はブリッジのカラー魚探等音響機器の電源を切るが、曳網中は作動させて構わない。計量魚群探知機は用船先が用意するものとし、調査終了後、保存した音響データは当所が用意した電子媒体に記録して搬出する。

④ 目視調査

各調査点において、流れ藻の有無、大きさを記録する。目視調査は乗組員および調査員が適宜実施する。

⑤ その他調査

調査時の気象、気温、風向、風力、表層水温等の環境記録、投網開始位置、着底位置、10 分後・20 分後および揚網開始位置、離底位置等をブリッジにて記録用紙に記載

する。記録用紙は当所が用意し、記録は調査員が行う。

4. 調査必要装備（本調査を実施可能な機能を有し、用船期間中に使用可能な状態（精密機器の校正等含む）で本船に整備されていること。）

① CTD ウィンチ 1台

上記3. ①調査用の能力を有する機器を有すること。

② トロール漁労装置・漁具1式 1台

上記3. ②調査用の能力を有すること。

③ 魚群探知機 1台

上記3. ②調査用の能力を有すること。

④ 計量魚群探知機 1台

上記3. ③調査用の能力を有すること。

⑤ 冷凍魚倉 1m³、標本・試料保存用冷凍装置 0.1m³（100L程度冷凍庫）

調査にて採集した標本を保存するため、-20℃以下の冷凍が可能な1m³以上の冷凍魚倉、および冷凍設備（100L程度冷凍庫）を有すること。

5. 総 ト ン 数 400～900トン程度

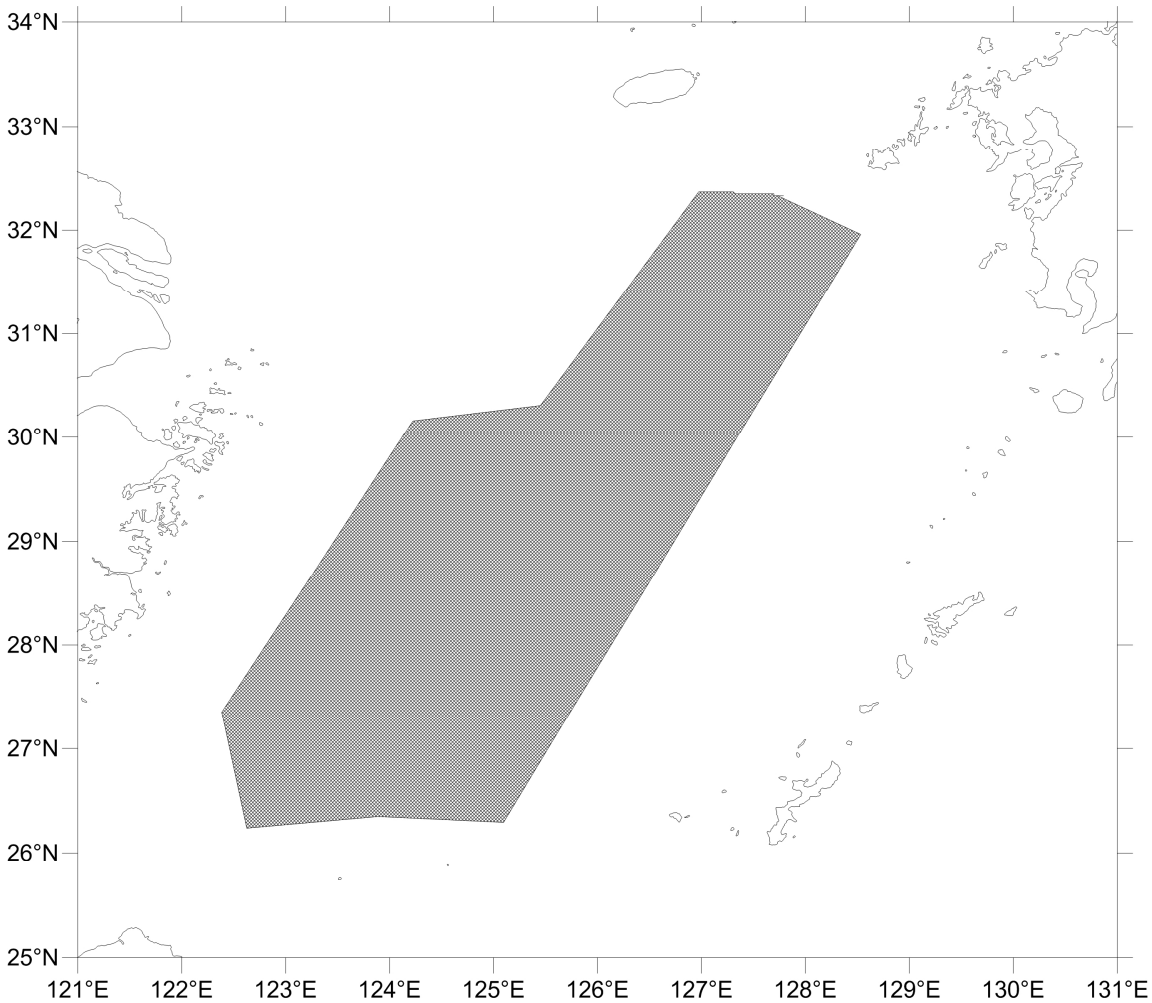
6. 乗船調査員数 6名（予定）

7. 用 船 期 間 平成30年11月12日～平成30年12月 4日（23日間）

8. 運 航 予 定	30年11月12日	用船開始、調査機材等搬入
	30年11月13日	新長崎漁港（三重地区三重式見港） （西水研前）出港
	30年12月 4日	新長崎漁港（三重地区三重式見港） （市場横）、調査機材等搬出、給油、 用船解除

9. 調 査 海 域 東シナ海

10. 調査海域図



11. 担当研究所 西海区水産研究所

12. その他

- ①緊急時の対応体制が整備されていること。
- ②安全航行のため、レーダーのハードコピーを残せる設備を有すること。
- ③詳細については担当職員の指示に従うこと。
- ④運航にあたっては、第三者所有漁具等への事故が発生しないよう細心の注意を払うものとする。なお、運航に関する事項については、本仕様書に定めるもののほか別添「漁業調査船に関する用船仕様書」によるものとする。
- ⑤用船契約期間中に消費した燃油は当機構が別途供給するものとする。
- ⑥用船開始・終了港については漁具・調査機材の搬出入の都合上、新長崎漁港（三重地区）とする。ただし、調査に支障の無い範囲内で請負業者と協議の上、決定することも可能とする。